
Shadow The Darkness

シャドウ・ザ・ダークネス

魔界王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Shadow The Darkness シャドウ・ザ・ダークネス

【Nコード】

N1607D

【作者名】

魔界王

【あらすじ】

闇を切り裂く魔王、血色の目をした男、名はシャドウ。闇の世界に踏み込んでしまった、悲劇の少女、名はマリア。そんな二人が、闇の生き物を狩りに冒険する物語。

Mission 1 When The Devil Appears (前書き)

やっと始まった!! (長かったあ)

未熟者ですので、どうもよろしく願います。

Mission 1 When The Devil Appears

両親の死亡原因は、交通事故。幼い頃から伯母さんにそう言われて来た。

でも、本当にそうなんだろうか？

伯母さんがそう言う時、彼女の目は嘘をついている。

分かる。目を見たら分かる。

それでも私はこの十六年間、ずっと交通事故だと一応信じていた。

もしかしたら、あまりにも死亡原因が残酷すぎたため、伯母さんが交通事故だと偽っているかもしれない。私はそう思っていた。

でも、と言うよりやっぱりか。

交通事故なんかじゃなかった。

「行つてきます、伯母さん」

私はそう言うと、急いで家を飛び出た。

日は沈みかけていて、住宅街の家が真っ暗になる。

「気を付けてねー、マリア」

背後から伯母さんの大きな声が聞こえた。

伯母さんは優しい人で、よく近所の人を誘ってお茶を飲む。

私は十六歳にしては小さな手で、伯母さんからもらったコインを強

く握った。

小柄な体を精一杯動かして、勢いよく走る。

だんだんと街が見えて来た。

私に向かっていているのは小さなパン屋さんで、トムというおじいさんが経営している。

今日は伯母さんが特別に、パンを買っていいと許可したのだ。

長い黒色の髪を翻しながら、元気よく走る。

パン屋が見えて来た矢先、カ一杯ドアを開けた。

「いらっしゃいマリア」

トムがカツラを急いでかぶったが、バレバレだ。彼は禿げている事を隠している。

「……ぷっ」

「何が面白い？」

トムのずれたカツラを見て、マリアは思わず吹いてしまった。

「なんでもないよ、おじさん」

「おいおい、お兄さんだろうが」

マリアはトムの無理がある発言を無視して、早速パンを選ぶ。二三個選ぶと、お金を払って店を出た。

「ありがとだね、あとツラが…」

「ッラア!？」

トムの声を聞いて、マリアはクスリと笑った。
テクテクと歩く。

空を見上げると、あと数分で日が沈む頃だった。

『おお、この時間帯は、丘の上の教会が綺麗なんだなー…』

早速丘を駆け上がる。

丘の上には、ボロボロの教会がある。その教会のステンドガラスが
夕日色に染まる時、とても綺麗になるのだ。

ボロボロの扉を開けると、ステンドガラスがキラキラと光っていた。

「わぁ…」

マリアはとても感嘆した。

恐らく、彼女が闇の世界に踏み込む前までの、最後の幸せだった。

突然、マリアのこれからの明るい人生を、狂わす音が鳴り響いた。
ギギギ、と。

『これは……扉の音!？』

考えている間に、視線を扉に向ける。

男が、立っていた。

黒いトレンチコートに黒いパーカー、ジーンズという格好。

黒い髪の中には、顔立ちが整った顔。

目は、赤だった。

片手には身丈程もある大剣を握っている。

「――」

マリアは絶句した。

絶句させられたというべきか。

「おい」

男がふいに口を開いた。

「その女に手え出すな」

《お見事。気配を察するとは》

頭の中に、直接鳴り響くような、奇妙な声だった。
戸惑った。

ワケが分からない。

突然男が乱入して、そして謎の声。

「あ」

腰に力が入らなかった。

倒れ込むようにして長椅子に座り込んだ。

「…悪魔か？」

《当たり前。無礼、下等な魔物と同類にするな》

また会話している。マリアは汗を拭いた。

怖い。恐怖が体を襲った。
怖い。

なんだこの男は。
なんだこの声は。

「なぜその女をつけまとう？　もしやそのパンか？　それとも可憐な容姿か？」

《くくく。違うな。こいつは――》

突然、背中を何か冷たい物が、流れ落ちる感触がした。
体が震える。

《――特別な存在なんだ……》

体の中から何かが離れる感触がする。

「出たな」

男が笑った。

ガガガガガガガガガガガ！！

キーンキーン！！

ズギヤアアアオオオオオン！！

ガシャーオン！！

意味が分からない。

マリアは長椅子の陰に隠れていた。

さつき、唐突に「隠れる！」と言われ、長椅子の影に隠れたのだ。

するといきなり爆音と鋭い音が立て続けに鳴り始め、

所々「ぐっ！」や「くがつ！」など聞いているだけで痛くなる声が聞こえて来る。

バァァンン！！

と爆音と同時に、椅子の向こうがパツ、と明るくなる。

マリアは、涙を流した。

闇の世界に、踏み込んだのだ。

Mission 1 When The Devil Appears (後書き)

嫌な終わり方ですね？（笑
次回もお楽しみ下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1607d/>

Shadow The Darkness シャドウ・ザ・ダークネス

2010年10月28日04時47分発行